

「濡れ落ち葉」 No. 248



人のうごき

《総人口》
97,828人 (+62)
男性 49,684人 (+22)
女性 48,144人 (+40)
《世帯》51,058世帯 (+16)

()内は、前月との比較です。

11-1 現在

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851

10/10 来年1月に開設予定の新しい《まちなか地域交流推進施設》まちライブラリーの活用策を検討

市が、新たに開設する《まちなか地域交流推進施設》の活用策などを語り合うイベントが、市中心部のコミュニティスペースで開催されました。イベントでは、まちライブラリー提唱者の磯井 純充代表や大学教授などが今後の運営などについて議論しました。《(一社)まちライブラリー》は、平成28年12月から千歳タウンプラザで民間図書館を運営していましたが、今年3月に閉館。市民の皆さんから存続を望む声を受け、市は、来年1月に新たな場所に施設を設置し、運営を《(一社)まちライブラリー》に委託する形で再開する予定です。



10/18 双方の持続可能な発展に向けて 日本航空株式会社と連携協定を締結



市は、日本航空株式会社と、双方の持続可能な発展に向けて、千歳の魅力価値を高め、地域の活性化や千歳ファンの拡大を図ることを目的に、連携協定を締結しました。内容は、「交流人口の拡大」「地域産業支援」「シティセールス」「人づくり・まちづくり」「次世代モビリティ」などさまざまな分野にわたります。締結式に出席した赤坂祐二代表取締役社長と山口市長はこれまでの連携に感謝するとともに、今後の更なる連携によるまちの発展に意欲を示しました。

10/22 先人の偉業をたたえて 空港開港95年献花式

大正15年10月22日は、千歳に初めて飛行機が舞い降りた記念すべき日です。一本の着陸場を、当時の千歳村民が総出で造り、小樽新聞社(現在の北海道新聞社)所有の「北海」第一号が着陸したことが、現在の空港の起源とされています。献花式は、当時の村民が未来の夢を《空》に託し、後世に大きな財産として残してくれたことに感謝し、次世代へと引き継がれることを願い、空港公園(柏台南)で毎年実施しています。



10/4 向陽台中学校卒業生 北海道高等学校秋季テニス大会出場



令和3年10月5日から8日にかけて苫小牧緑ヶ丘公園庭球場を会場に北海道高等学校秋季テニス大会が行われ、大会に出場した千歳テニス協会所属の《向陽台中学校卒業生5人》が市役所を訪問し、大会への抱負などを語りました。(左から佐々木さん、東さん、上野さん、鳴海さん、酒田さん)「緊急事態宣言中で、限られた中での練習となりましたが、いい結果を残したい」とそれぞれ活躍を誓いました。

10/10 千歳水族館の大人気イベント サケの採卵体験



サケのふるさと千歳水族館では、《サケの採卵体験》が実施され、市内外から8組32人が参加しました。クイズなどでサケについて学んだ後、メスのお腹を切り、卵を優しく専用の容器に移し、オスの白子をかけました。参加者には採卵日やふ化予定日が記載された《記念カード》が配られました。また、採卵した卵は、水族館に展示され、成長を見ることができます。このイベントは、《ふ化放流事業》の体験を通じて、事業の理解と愛着を持ってほしいとの願いが込められています。

10/9 ちとせ環境と緑の財団主催 花と野菜の学校 かぼちゃのランタン作りでにっこり



北ガス文化ホールを会場に《花と野菜の学校~親子でハロウィン工作》が開催され、市内の親子19組49人が《かぼちゃのランタン》を制作しました。このイベントは、市民が季節に応じた花や野菜について学ぶことを目的に、ちとせ環境と緑の財団が主催しました。参加者は、親子で協力しながら、オレンジ色のハロウィンかぼちゃにさまざまな顔を描いたあと、ナイフとスプーンで顔をくり抜きました。参加者は、「中身をくり抜くのが大変だった」と話しながらも、完成したランタンの出来映えには満足した様子で、素敵な笑顔を見せてくれました。

